第Ⅳ群　座長のまとめ

帝京大　耳鼻科
鈴　木　淳　一

13）実験的アレルギー病態モデルマウスに対する Baicalein 鼻吸入の基礎的検討について（滋賀医大麻酔科西沢氏）では，Ba-P-Na_3 の作用が濃度依存的であることが注目された。これは，当然のことながら，方法がネビュライザーであることから，実地には種々の問題介入で効果に変化がもたらされることが懸念された。

14）エアロゾル療法に用いようとする薬剤に粘稠剤を添加した場合の粒径変化パターンの演題（帝京大耳鼻科佐藤氏他）については，粘稠剤の添加によって，生じる粒子の大きさに変化が生じること，これも13席の演題同様に，実地における問題として注目され，実地指導ないしは実地でのチェックを必要とすることが感じられた。

15）吸入療法における各種薬剤の安定性（第２報）（北里大薬学部吉山氏他）では，２剤以上の配合による薬効の低下が認められること，とくにアレベールとボスミンというようなごく普通の薬剤の配合も避けるべしとの報告があり，これまた，実地における懸念を生じさせるものであった。

以上，３題は，何れも実地臨床で生じやすい問題に関するものであること，それらについての確認があるとすれば，速かに広報すべきであると感じた。